

日本学術会議 社会学委員会 社会福祉学分科会  
(第25期・第6回)  
議事要旨

日 時：2022年3月16日（水）13：00～15：30

場 所：オンライン開催

出席者：和気純子 大和三重 金子光一 木原活信 竹本与志人 原田正樹 保正  
友子、牧里每治 湯澤直美 （9名）

欠席者：岩崎晋也 岩永理恵 須田木綿子 住居広士 野口定久 山野則子

記 録：保正友子

<議題>

1. 日本学術会議の現状報告

新しい見解と新しい査読システムが認められたため、見解提示にむけて作業を進めていくこととなった。今後、社会学委員会に提出し、どこかのタイミングでシンポジウムを開催する。

2022年4月の日本学術会議総会では、主に会員選出の見直しについて話しあう。

2. 見解発出にむけた検討

見解のテーマは「危機とリスクに対応する社会保障・社会福祉～誰一人取り残さない制度・支援への変革～(仮)」とし、次の5つの軸で構成する。①生活困窮者への生活再建と安心な住まいの確保、②教育との連携による子ども家庭福祉、③ジェンダー平等の推進と女性支援法の制定による包括的支援、④全国でつながる災害福祉支援ネットワークの構築、⑤差別・社会的排除と「共に生きる力」を育む(福祉)教育。コロナ禍で顕在化した課題の提示を通し、近年の家族、地域等の変化をふまえ、ウィズコロナ、アフターコロナを視野にいれた社会保障・社会福祉の仕組みを再構築する必要性を提起する。

3. 各項目にそった提案

各人が提出した資料に沿って、各項目の詳細について検討した。そこでの合意事項は以下のとおりである。

- ・コロナ禍で顕在化した課題の解決が必要であるという視点を基底にする。コロナ

禍と一言で言ってもフェイズによってニーズが異なる点に留意する。今回のコロナ体験を軸にして、今後どのような災害が生じても機能する社会保障・社会福祉のシステムを検討する必要がある。環境・システムに焦点を当てる。

- ・広い意味での福祉職(介護・保育も含む)を対象にする。
- ・依拠しなければならない文献に決まりはないが、より一般的なものが良い。

#### 4. 今後の進め方

- ・年内を目処に完成(発刊)させる。
- ・そのプロセスのどこかでシンポジウムを開催し、関係者らと広く意見交換する機会をもつ。

以上